

教育と文化

国史跡大川内鍋島窯跡の発掘調査成果 日峯社下窯跡の調査で新たな発見

● 問合先 生涯学習課文化財係 ☎ 221262

市教育委員会では、『国史跡大川内鍋島窯跡（大川内山）』の整備を進めるため、平成26年度から令和元年度まで、史跡地内にある日峯社下窯跡の発掘調査を行いました。

佐賀藩は、江戸時代に将軍家への献上や幕府の要人への贈答用として、特別あつらえの磁器製品である鍋島焼を大川内山で製作しており、日峯社下窯跡は、初期段階の鍋島焼を焼成していた窯跡です。

令和2年度は、発掘の成果をまとめるための整理作業を行いました。主な作業として、窯跡から出土した遺物の接合や出土遺物に出土位置などを記入する注記作業などを行いました。



↑ 出土品の接合作業



↑ 東南アジア向けの製品
※ 左右は小皿、中央は合子（蓋）

ました。また、出土位置の検討や出土品の類例調査を行い、操業年代や出土した製品と陶工たちの関係も調査しています。

新たな成果としては、今まで江戸時代の大川内山では、海外輸出用の磁器製品を作っていなかったとされていましたが、今回の調査で東南アジア向けの小皿や合子（蓋付の入れ物）などを確認しました。今年度は、コロナ禍で延期となっている発掘調査の成果発表や出土遺物の展示を行い、国内唯一の藩窯である大川内山の歴史を明らかにする予定です。

郷土の文化財

伊万里の遺構シリーズ「埋葬遺構を中心として」⑥

● 問合先 生涯学習課文化財係 ☎ 221262

奈路寺古墳

（三里町川東 昭和35年度調査）

奈路寺古墳の中心主体部の木棺からは、さまざまな副葬品が出土しています。

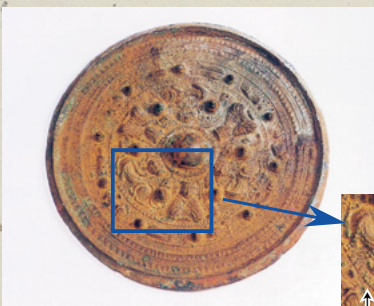
中心主体部の木棺は、地表から約1.5m掘り下げた場所で見え、全長約4.5m、幅1.5mにわたって朱の混じった川原石が、棺の床面に粘土とともに南北方向に長く敷き詰められていました。

その敷き詰められた川原石の北端に、背面を上に向けた青銅鏡と、青銅鏡の下に刀、剣などの鉄器が並べられていました。この状況から、中心主体部の構造は、床面だけに礫（川原の石）を敷き詰めた礫床であったと考えられます。

出土した青銅鏡は、背面の中心付近に神像（仙人）が3体、獣像（白虎）が3体交互に配置されています。

また、鏡の縁の断面が三角形に近い三角縁となっておりことから、『三角縁三神三獣鏡』と呼ばれています。

三角縁三神三獣鏡の出土から、大和政権との関係が考えられ、当時の大和政権が、伊万里湾地域と深い関わりを持っていたのではないかと考えられています。



↑ 三角縁三神三獣鏡の背面



↑ 神像



令和の時代を生き抜く伊万里っ子のために

● 問合せ 学校教育課学校教育係 (☎☎3185)

令和3年度 教育の取り組み 『ふるさと伊万里を愛し、将来の夢や希望を語ることができる子どもの育成』

【目指す子どもの姿】

- 伊万里の『ひと』・『こと』・『もの』を学ぶことを通して、『ふるさと伊万里を愛し、誇りに思う子ども』
- 伊万里の『ひと』・『こと』・『もの』との関わりを通じて、自己有用感を育み、『自ら学び、将来の夢や希望を語り実現しようとする子ども』

- ▷ 学校では、粘り強く学習に向かい、自分や友達の見方・考え方を共有し、さまざまな見方や考え方を働かせることができるような授業を行います。
- ▷ 家庭学習の充実に向け、学校と家庭、地域との連携を進めていきます。
- ▷ 1人1台のタブレットを効果的に活用し、プログラミング教育を推進していきます。



『令和2年度 全国学力・学習状況調査』の結果から見えてくると

児童・生徒の学力や学習状況を調査し、教育の充実に生かすため、毎年4月に『全国学力・学習状況調査』が実施されます。昨年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、児童・生徒の学習や生活環境に関する項目を調査する『質問紙』のみを小学校6年生と中学校3年生を対象に実施しました。

この結果をもとに各学校で分析し、課題を明らかにして具体的な対策を考え、授業の改善や、家庭学習をはじめとする基本的な生活習慣の定着に努めていきます。

家庭学習について

- 家庭において、自分で計画を立てて勉強している
小6 65.1% (県比較 △ 2.2)
中3 50.1% (県比較 △ 2.7)
- 平日に1日当たり1時間以上勉強している
小6 59.4% (県比較 △ 2.6)
- 平日に1日当たり2時間以上勉強している
中3 39.4% (県比較 △ 10.9)



家庭での学習では、「何時から勉強する」と約束したり、勉強をしている子どもに温かい声をかけたり、頑張りを褒めたりすることで、子どもは認められる喜びから、学習の意欲がでできます。

どうして学力が必要なのでしょう？

子どもたちが将来の夢や希望をかなえるために、また、これからの変化の激しい社会で対応していくために、確かな学力を身につける必要があります。

※確かな学力とは、知識や技術はもちろんのこと、学ぶ意欲や自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、より良く問題解決する資質や能力のことです。

将来の夢や希望について

- 家の人と進路や将来のことを話している
小6 56.8% (県比較 △ 0.5)
中3 81.6% (県比較 △ 1.7)
- 将来の夢や目標がある
小6 81.1% (県比較 + 1.2)
中3 65.9% (県比較 △ 4.0)

調査結果

将来の夢や目標を語ることができるように、学校では、将来の生き方や自立して生きていくために必要な力を育みます。

家庭でも、将来のことや夢について話す機会を作りましょう。夢を持つことで、目標ができ、学ぶ意欲が湧いてきます。

スマートフォン・携帯・ゲームなどについて

- 携帯電話やスマホの使い方は、家の人と約束したことを守っている
小6 52.8% (県比較 △ 0.2)
中3 54.7% (県比較 + 0.1)
- テレビやゲームの時間などのルールを決めている
小6 63.7% (県比較 + 1.4)
中3 34.9% (県比較 △ 4.2)



スマホ、ゲーム、インターネットなどの使用については、家庭で決めた時間やルールをしっかり守りましょう。

情報モラル教育も必要です。親から一方的に押しつけられたルールを守ることは、長続きしません。お互いが納得するルールを決めて、安心・安全に正しく使う方法を親子で学ぶことが大切です。

未来を担う伊万里っ子の学力向上と健やかな成長のために、学校・家庭・地域が一体となって取り組みましょう